

## 事業概要

### 自ら課題を発見・設定するPBL ～地域企業価値最大化プログラム～

福岡県の公立中学・私立高校を舞台に、福岡県内の企業3社と協働し、「自ら課題を発見・設定する」PBLの開発と有効性・STEAM化可能性の検証を行います。加えて、プログラムを支援する社会人の人材育成プログラム部分についても、開発・実証し、PBL効果の最大化に繋がります。

最終的には、「学習者の意欲」を推進力とし「価値」・「知」・「人材」を創造し続けるエコシステムとしての「未来の教室」を目指します。

## 進捗状況と今後の展望

### ・生徒向けPBL

↳9月下旬に第1校として、指導ガイド、ワークシートともに完成

第一実践校である福岡舞鶴高校にて、9月20日に教員向け研修、25日に授業がスタート  
受講生徒（実験群）、非受講生（対照群）に対して事前アンケートを実施済み  
全プログラム終了後（1月中旬）にそれぞれに対して同様のアンケートを実施、分析し、その変化からプログラムにおける生徒の変容を可視化する予定

第二実践校である東光中学は、12月21日に教員向け研修、1月より授業スタート予定

### ・社会人向け研修

↳社会人向け年取プログラムを開発し、協働企業3社の社員に対して集合研修として9月26日に実施。

さらに、9月27日より随時、各社に向けての研修も実施。

10月より、舞鶴高校での授業に対する参画を随時スタート。

### ・PBLのSTEAM化に必要な初期仮説の生成

↳舞鶴高校で実施中の授業においては、プレ的にデータ収集を実施中。

特に企画検討が始まる10月中旬以降の授業でのディスカッションのデータを取得。

より普遍的で今後の展開においても検討の価値が大きいと考えられる公立中学である東光中学（2年生）に対する授業実施時に本調査としてデータの取得と仮説の生成をおこなっていく。

# 参考①) 株式会社教育と探求社

## 生徒向けプログラム第1校完成、授業スタート

地元の企業をイノベーションする探究型の教育プログラム、「Business Innovation」が完成し、福岡県舞鶴高校の1年生、2年生の有志61名に対して授業が開始されました。

タイトル	内容
1 学校を使ってビジネスをつくろう！	「リソース」を発見する目を養う
2 学校の「リソース」をお金に変えよう！	
3 クラスグランプリを決定しよう！	
4 地元企業をイノベーションする	企業と出会い、企業のリソースを発見する
5 企業人インタビュー	
6 フィールドワーク	
7 イノベーションを起こす	リソースを活かしたイノベーションプランを考える
8 アクションプランを考える	
9 イノベーション後の世界を描く	
10 高みへ向かうためにライバルに問う	中間プレゼンを経て、プランを磨きこむ
11 ブラッシュアップする	
12 提案書をつくる	
13 プレゼンテーションにまとめる	企業人にプレゼンし学びを振り返る
14 プレゼンテーションする	
15 すべてを振り返る	



学校の見学で発見した「お金儲けに繋がりそうなリソースを共有しました。

机や椅子などの備品、先生たちのスキル、理事長の私物や短くなったチョーク、消しゴムのカスまで、多くのリソースを見つけてくれました。

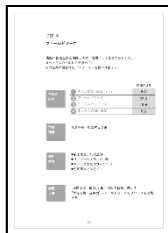
「学びの場」だと思っている学校を、ビジネスのための「リソース」として見てみることで、見慣れた日常が全く別の世界に見えてくる、そんな体験を通して、「リソースを発見する目」が養われるとともに、自分たちの回りに溢れている可能性に気づき、「ちょっとしたことで自分も世界を変えられるかもしれない！」という意識が育まれていきます。



学校を使ったビジネスプランを2コマの授業で考え、発表しました。

『使い終わった教科書やワークシート』をリソースとして捉え、その教材に取り組む中で感じた課題や疑問点などの情報を教科書会社にフィードバックしてビジネスとする」、「『学校に落ちている落ち葉』をリソースととらえ、地域の人を巻き込んだ焼き芋大会を行う」といったユニークで、2時間の授業で考えたとは思えない発表が並びました。

「対話形式の授業」をほとんど体験したことない生徒たちでしたが、短期間で企画検討ができるまでになりました。



教材一式が完成しました

## 参考②) 株式会社教育と探求社

### 教員向け研修実施

授業実施に先立って、授業を行う先生向けの研修を行いました。今回のプログラムへの関心度は非常に高く、授業を行う先生のほか15名の先生が参加、さらに負数の先生も見学に来ていただきました。



第1実践校である福岡舞鶴高校にて  
教員研修を実施しました。

これまで、進学実績を一つの目当てとして  
学校運営を行ってきた学校が、  
新たな挑戦に向かうべく、多くの先生が本  
プログラムに関心を持ち、研修にも参加い  
ただきました。



探求型のPBLを教員がファシリテートするた  
めには、「やり方」や「ノウハウ」以上に、  
先生自身の教育観シフトが重要になります。  
そのために、生徒たちがこれから取り組むプ  
ログラムの一部を実際に体験し、「自ら主  
体的に取り組む」、「互いに意見を言い合  
う」場やその空気を体感し、自分がその場  
を作るためのやりかたやそのための課題を検  
討していきました。



授業を担当する教員以外の教員の方も授業の  
見学やサポートに参加していただいています。研  
修に参加しなかった先生の見学も増え、学校全  
体に影響が広がっています。参加した先生からは  
「いつもはここがだめ！とかもっとこうせい！とか言  
いたくなるところを、それじゃだめだと我慢した。  
(このプログラムの中で)自分たちは結果を求  
めるのが性急すぎるんだなと気づいた。もっと待た  
なきゃいけない」という言葉が聞かれました。



## 参考③) 株式会社教育と探求社

### 企業人向け研修実施

授業をサポートしていただく企業人に対しても、研修を行いました。実際に生徒たちに対して授業を行う企業人だけでなく、企画に対するコメントや議論のサポートなど、様々な形でかかわる可能性のある企業の方へのご参加いただきました。



授業にかかわっていく可能性のある企業人のすべての方むけに集合研修を行いました。「未来の教室実証事業」の概要や、目的を共有し、我々が考える「未来の教室」と今回の授業の価値と実現したいことを説明したうえで、「中高生に正解を教える大人」ではなく、「共に学びあう」大人として関わっていただくようインストラクションしました。



生徒たちの学びをサポートする準備として、自分自身の基盤を確認するためのワークを実施しました。自分自身の生き方や働き方、大切にしてきたことを再確認し言語化することで自分のあり方を整え、生徒たちに正面から向き合うスタンスを醸成しました。



研修2日目は各社に分かれて、自社のSWOT分析を行いました。生徒たちは企業のイノベーションに取り組むために、様々な観点から企業のリソースを探します。そのため材料として活用する企業の特徴や置かれている環境を引き出していきました。